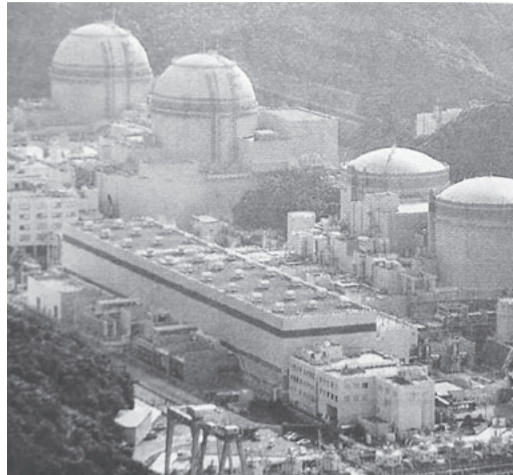


**再稼働に反対表明を
市長会を通じ説明求める**

飯発 大原



大飯原発再稼働問題を伝える新聞記事

塩貝建夫議員（共産党）

①原発ゼロの意見表明を行い、「脱原発をめざす首長会議」に参加することを求める。

市長 原発ゼロを明言

「原発ゼロの意見表明を行い、「脱原発をめざす首長会議」に参加することを求める。」

市長 休止中の原発の再稼働については、安全性の確保については、周辺自治体の住民にとまらず、しっかりと説明をされるよう、京都府市長会などを通じ、国に対し強く求め、慎重に検討する。な

く求めている。

③震災がれき処理について、平成23年12月の建設経済常任委員会でも部長は、「現在の甘南備園の焼却炉の稼働の物理的な問題から、現在も受け入れできない。もし将来そのような話があったら、同じ回答しかできないと言いたい」と明言した。本市での焼却、埋め立て処理について問う。

経済環境部長 広域処理を行うには、国民の放射能に対する不安を払拭することが最も重要。本市のがれき処理問題については、今後とも市民の安全安心を最優先に、国や府などの情報収集に努め、慎重に検討する。な

中学校給食の委託弁当を再提案

上田 毅 議員（無会派）

①中学校における給食 給食を希望するという意見の進行状況を問う。 見や、自分の弁当を持参



委託弁当の事例

させたいと考えておられる親御さんの全ての考えに、自由に対応できる委託弁当（デリバリー）方式を再度提案する。

教育長 すでに実施されている市の実態を検証し、できるだけ早く検討していききたい。

②同志社大学文系学部などの移転について、市が受ける影響をどう捉えているのか。私の試算では約5000人の学生が減ると見込んでいる。この予想（数値）に伴い学

生マンション経営の心配が懸念される。新しい思案・思惑も取り入れ親身になって相談窓口を開くことも考えてはどうか。

副市長 今後とも非常に重要な課題であるので、情報もしっかりつかみ、同志社との連携の取組みは、市としてしっかりと行っていか。

③震災がれき受け入れについて。市民の方々の中でも賛成・反対と分かれている状況である。市としてがれきを受け入れるのであれば、市民に対し詳しい説明が必要と考える。放射能だけに及ばず、危険物質を調査し、市民に危険性の無いことを立証し、安心して頂く

ことも市議会議員として私の大きな務めである。経済環境部長 今後とも市民の安全・安心を最優先に、慎重に検討する。がれき処理問題については、市民に対する説明を果たさなければならぬ。

④高齢者の方々の対応について。近年、孤独・孤立死が増加している。単身高齢者の方々に対するケアは整っているのか。行政から連絡をとるサービスを提案する。

保健福祉部長 地域包括支援センター職員が、単身者や高齢者の世帯を戸別訪問し、見守りをさせていない高齢者の方々の相談等に当たる事業を実施していく計画である。

**信号機の設置を
しっかりと要請していく**

水取 取

水取 取

①交通環境について②水取バイパス交差点は見通しも悪く非常に危険。信号機の設置を。また普

賢寺小学校前の旧道に交通規制を③近鉄新田辺駅西側の田辺駅前交差点の交差点で頻繁に見られる交通違反にさらなる対策を。④田辺高校周辺、田辺平田線の整備を。

⑤信号機設置は、地元区から府民公募型事業に応募されたが、市としてもしっかりと要請していく。旧道規制は地元区からの要望を受け、府が関係機関との調整を進めている。⑥田辺警察署に取



信号設置が望まれる水取地区交差点（上）と交通違反が多い田辺駅前交差点（下）

南部登志子議員（無会派）

り締まり強化を要請する。

建設部長 ⑤田辺高校周辺は、河原浜新田線の歩道幅整備事業を実施中で、新田辺東2条線も歩車共存道路的な整備を目的に調査、設計をしている。田辺平田線は本来農道であるため、幅員改良すれば通過交通の増加と踏切内の危険性が増すと懸念されるので、整備する予定はない。

⑥同志社大学文系学部移転後のまちづくりについて。計画発表当初とは状況に変化がある。再度、学生・下宿生の減少数、経済的損失を把握し、関係機関と連携しながら適切な対策をとるべき。今後、学生マンションの空

き室増加が予測され、それが防犯や治安上の問題を生む。学生マンションの新設には一定の規制が必要ではないか。特にワンルームマンションの住民の多くは一過性である。本市のまちづくりの根本に関わる問題である。

市長 7年前の答弁は適当な数字できっちりしたものでない。現時点では減少数も不透明。再スタートして同志社との連携をしっかりと深める。マンションの規制も法律上抑えることはできない。

⑦医療費免除のない難病者に医療費支援を。

保健福祉部長 国で大きな見直しが行われているので、それを見守る。

**松井山手
駅東側
ロータリー拡大は
困難だが改善に取り組む**

鈴木康夫議員（一新会）

①JR松井山手駅東側ロータリーのキャパシティが限界にきていて、混雑を解消するため、中央緑地帯の縮小などの手段を講じて、拡大を図るべきだ。

建設部長 物理的な措置による拡大は、車の進入を容易にさせ、混雑を助長させる恐れがある。現状のロータリー幅員を車両が走行する部分と、送迎車両が停車する部分

を明確に区分して、交通の流れを一定確保する対策を検討中である。

②JR松井山手駅前に、犯罪抑止のため、防犯カメラを設置するべきだ。今後商業施設の開業などが予定されており、不特定の人出入りの増加が予想される。

安心まちづくり室長 防犯カメラの設置は、年次ごとの計画に基づき実施している。今年度は、

JR京田辺駅東側に設置予定で、JR松井山手駅は今後の検討課題である。

③節電対策としてのクールスポット拡大は。教育部長 市民プールの営業日の拡大と、特定日の利用料金半額を実施する。図書館の開館日の拡大は、閉館日を行う予定作業があり実施は困難。

④高齢者施策の課題として、地域包括支援センターの認知度拡大と、機能充実があると考える。特に、大住中学校区での実施についての考えは。



多くの自動車が入り入れるJR松井山手駅東側ロータリー

多くの自動車が入り入れるJR松井山手駅東側ロータリー